



◆においデータベースソフトを活用した香気成分分析

【概要】

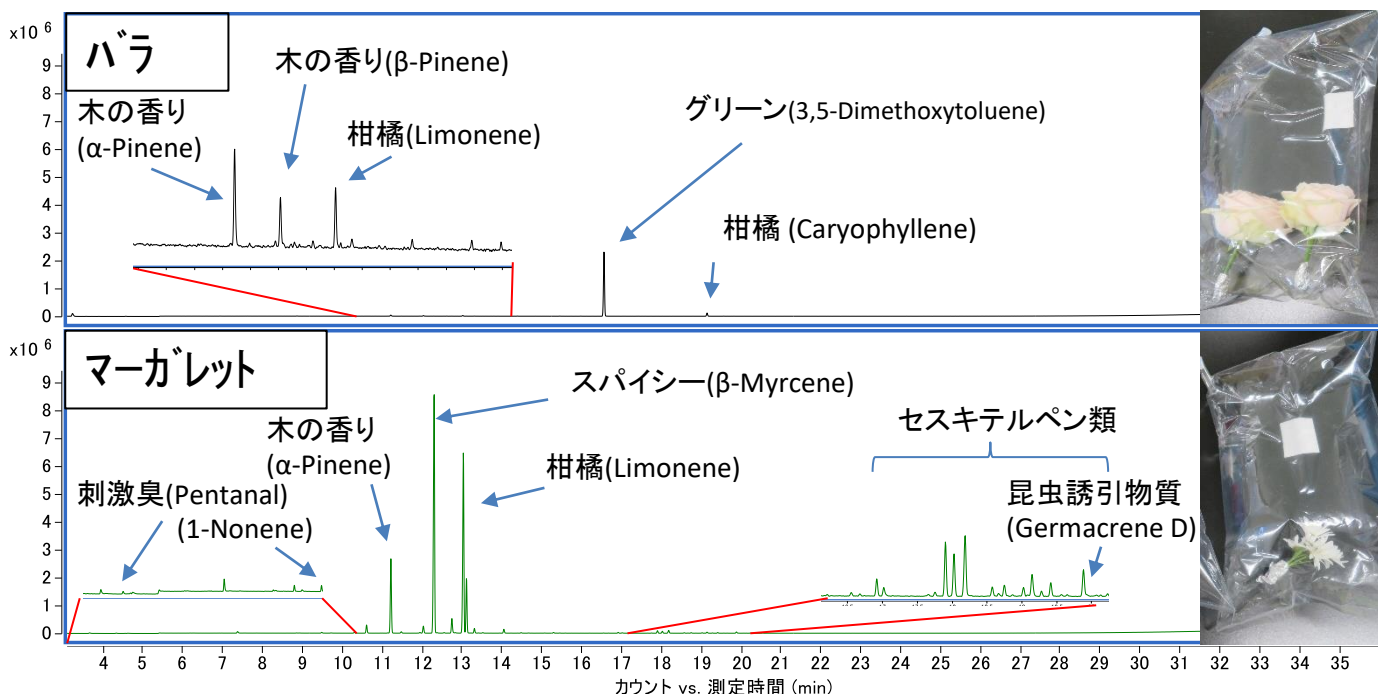
GC/MS測定データから、データベースソフト「AromaOffice」を用いて解析を行うことで香気成分の定性分析が可能です。各種放散試験と併用することで、様々なモノの香気成分測定に対応いたします。

【測定事例】

「バラ」、「マーガレット」の2種類の花を別々のにおい袋に入れて、揮発成分を捕集しGC/MS測定を行った。AromaOfficeで測定データから香気成分を定性した。

バラは、3,5-Dimethoxytolueneが主な揮発成分であり、グリーンやスパイシーなどの情報が得られた。その他に、木の香りや柑橘類などの情報を持つ複数のモノテルペン類とCaryophylleneが微量に含まれていた。

マーガレットは、 α -Pinene、 β -Myrcene、Limoneneが主な揮発成分であり、最も強度の高かった β -Myrceneからはスパイシーや木の香り等の情報が得られた。その他の香気成分として、複数のモノテルペン類と微量のセスキテルペン類が含まれていた。また、Pentanalや1-Noneneなどの刺激臭を持つ成分も含まれていた。



株式会社MCエバテック

分析事業部 営業部 ☎ : 029-886-3951 FAX: 029-886-3952

お問い合わせ ✉ <https://www.mcet.co.jp/contact/analysis/>